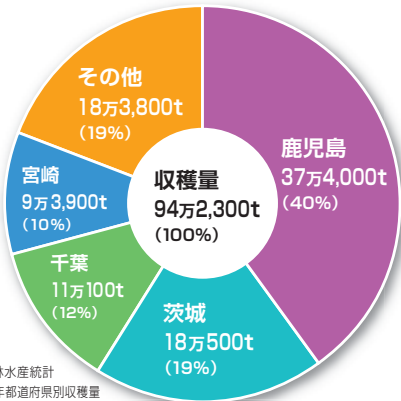
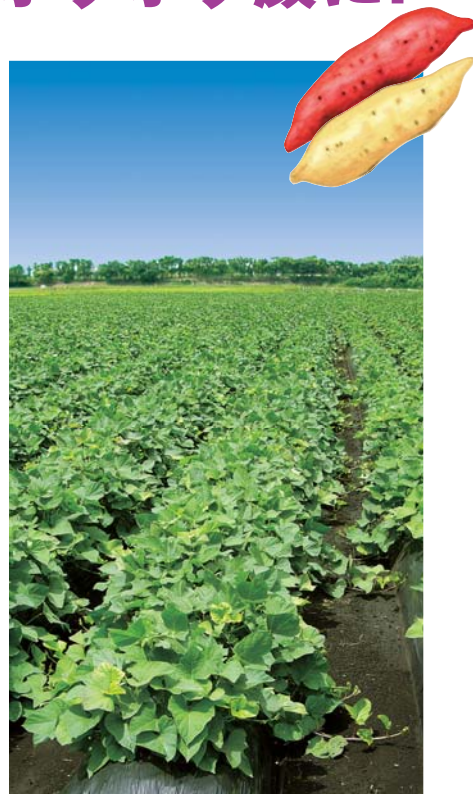


春先に植え付けが始まるかんしょ栽培。 バスタで除草して秋の収穫をホクホク顔に!



出典 農林水産統計
平成25年度府県別収穫量

アジアを中心に栽培されている「かんしょ」は、中国から日本の琉球、種子島に伝わったのが最初といわれています。日本における「かんしょ」の主要産地は九州と関東で、鹿児島、宮崎、茨城、千葉の4県で全国の80%が栽培されています。



かんしょの雑草防除の方法

マルチ栽培 ① 土壌処理剤による雑草防除



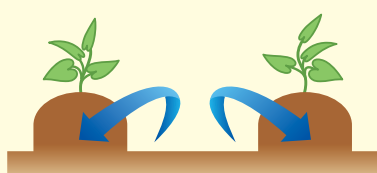
雑草発生前～発生始期までに使用します。

② 茎葉処理剤による雑草防除



生育の進んだ雑草を防除できます。かんしょの「つる」が伸びている時期なので、薬液がかからないように注意してください。

露地栽培 ① 土寄せによる雑草防除



雑草防除だけでなく、土中の空気の通りが良くなり、イモの肥大効果もあります。生育期間中に2～3回実施します。

② 茎葉処理剤による雑草防除



生育の進んだ雑草を防除できます。かんしょの「つる」が伸びている時期なので、薬液がかからないように注意してください。

バスタの登録内容 (2015年4月現在)

作物名	適用雑草名	使用時期*	10アールあたり使用量 (mL)	総使用回数**
かんしょ	一年生雑草	14日 (雑草生育期 挿苗前または畦間処理)	200～500	2回

[使い方] 希釈水量10アール当たり100～150ℓを雑草茎葉散布

*印は収穫物の残留回避のため、その日まで使用できる収穫前の日数を示します。

**印はグルホシネート及びグルホシネートPを含む農薬の総使用回数の制限を示します。

ご存じのように、生食用(焼き芋など)の他に、醸造用(焼酎など)、でんぷん粉用(水あめ、ブドウ糖など)、加工食品用(干しいもなど)などで消費されています。

秋に収穫する「かんしょ」ですが、春先から植え付けの作業が開始されます。収穫まで色々な作業がありますが、雑草防

除も重要な作業の一つです。「かんしょ」の雑草防除の方法をご紹介します。

畦間の雑草を防除するには、バスタ液剤がお薦めです。平成27年2月に適用拡大になり、さらに使いやすくなりました。畦間処理では、薬液が葉にかからないように十分注意してください。

特集

この作物に
登録アリ!

たかな

一年を通じて栽培される「たかな」には 多くの雑草に除草効果のあるバスタ!



たかな

高菜漬けの他にも、美味しい食べ方があります。たかなを洗って細かく刻み、熱したフライパンにごま油をひき、高菜を炒め、砂糖↓醤油↓唐辛子↓ゴマの順に加え、水分がなくなるまで炒

たかなはアブラナ科の越年草で、原産地の中央アジアからシルクロードを通じて日本に入ってきたと言われています。平安時代にはすでに栽培されていたという文献もあり、古くから日本に定着した野菜の一つです。

九州に主な産地

日本三大漬菜に数えられるたかなは、「阿蘇高菜」で有名な熊本県の阿蘇地方や、「三池高菜」で有名な福岡県筑後地方など、九州の各地で栽培されています。周年収穫することができますが、漬物向けに収穫されるのは、冬から初春にかけてとなります。

たかなの豊富な栄養

たかなはβカロチンを多く含む緑黄色野菜です。ビタミン類をC、B1、B2、Kなど、バランスよく含んでいるため、動脈硬化などの生活習慣病から守る働き、他、皮膚や粘膜の細胞を正常に保ち、免疫機能を高める働きなどがあります。また、辛み成分のイソチオシアネートを含んでいるため、食欲を増進させる効果もあります。

たかなの食べ方

■バスタの登録内容 (2015年4月現在)

作物名	適用雑草名	使用時期*	10アールあたり 使用量(mL)	総使用回数**
たかな	一年生雑草	7日 (雑草生育期 は種前または畦間処理)	300~500	2回

[使い方] 希釈水量10アール当り100~150ℓを雑草茎葉散布
*印は収穫物の残留回避のため、その日まで使用できる収穫前の日数を示します。
**印はグルホシネート及びグルホシネートPを含む農薬の総使用回数の制限を示します。

める。これで「高菜のピリ辛油いため」の出来上がりです。ぜひ作ってみてください。

たかなの栽培にもバスタが使用できます。は種前または畦間に200~300倍に希釈したバスタを雑草にたっぷり散布して防除してください。

REPORT



日本各地のバスタ情報 ~ 九州編 ~

レポーター: バイエル クロップサイエンス(株) 九州営業所 鹿児島担当 田代 翔悟

鹿児島県は一万四千ヘクタール弱の作付面積を誇る、日本最大のかんしょ産地です。

収穫された多くのかんしょが、芋焼酎原料やでんぷんなどの加工用として出荷されています。近年、年齢を問わず焼酎の人気上昇しているため、消費者に工場を公開する酒造メーカーも増えてきています。



収穫されたコガネセンガン

そんな中、加工がしやすい良質な生産物だけでなく、消費者へのイメージアップにつながる「見た目も良いかんしょ」作りが生産者に求められています。

そこで、良質なかんしょを、効率的に生産するために活用されている除草剤がバスタです。

かんしょ作付け面積の30%~40%が畦間だと言われています。畦間除草は5月頃から始まり6月までが適期です。しかし、この時期は一部に植付が残っていたり、天候が不安定であったりと作業が煩雑なため、いかに効率的に除草できるかが大切です。

【抑草期間】

大規模化に伴い、一回の散布作業で長く抑えられる除草剤が必要とされています。バスタは1回の散布で30~40日間の抑草期間があります。かんしょ茎葉の伸長期間をバスタで効率良く除草できるため、使用される農家さんが増えています。

【問題雑草】

また、様々な問題雑草が畦間から発生し始める梅雨時期でもあります。バスタは多くの問題雑草に高い除草効果があり、何度も除草作業に時間をかけられない農家さんのお役に立っています。

大切な
作物のそばに。



バイエルクロップサイエンス株式会社

東京都千代田区丸の内1-6-5 〒100-8262 www.bayercropscience.co.jp

お客様相談室 ☎0120-575-078 9:00~12:00,13:00~17:00 土・日・祝日を除く

詳しくはバスタの情報サイトへ
www.basta.jp/